

第41回 全国ミニバスケットボール大会

日 時：2010年03月28日（日）～03月30日（火）

場 所：国立代々木競技場第一体育館・第二体育館

山口県出場チーム

男 子：東岐波ミニバスケットボールスポーツ少年団

女 子：川西ミニバスケットボールクラブ

全国大会視察

予選では、1クォーターからプレスを仕掛け、先攻逃げ切りといったケースが多く、今回の東岐波戦の1回戦がそれを物語っている。

優勝するチームはプレス対策が十分にとられている様で中々、引っ掛かることはなくボールを廻し、又はガードが運びきるといったケースが多く見られる。

選手の個々の能力が優れていると言うよりは、良く鍛え上げられている感じである。

全国大会においては必ずプレス対策を十分にとる必要もあるし、コーチも十分に熟知して試合に望まなくてはならない。

プレスをするにあたって1対1のDEF、OFFをしっかり鍛えなければ全国では通用しない。

同様に他の選手の2番、3番DEFの寄り、ヘルプなどがしっかりしなければならない。

また、少々の当たりでもシュートへ持っていくだけの体幹（芯）を鍛える必要もある。

女子も同様にプレスが効いているが、セットOFFからの得点が多く特にセンターの役割が大きく勝利に結びついている。センターを中心としたハイローなどの展開が見受けられた。センター自身もペイントエリア内のシュート確率が高いのが印象に残った。

山口県のレベルも全国と比べてそんなに差異は無いように感じる。ただ、選手層の厚さやガードがしっかりしなくてはならないと感じた。特に戸畑のガードの様に縦横無尽に動き回り、相手チームを翻弄しセンターに合わせる。自らも得点していくなどのプレーヤーがいないと全国での優勝は難しい。また、練習も殆んど毎日行い年に数回の休みしかないと言う。

最後にこの様な視察をさせて頂き感謝致します。

以上ご報告申し上げます。

琴芝黒石ミニバスケットボールスポーツ少年団

入江 博